

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800237
法人名	社会福祉法人グリーンコープ
事業所名	グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか(ユニット名))
所在地	飯塚市潤野967-13
自己評価作成日	令和元年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか)は開所して11年目を迎えました。近くには高校、公園、公民館、スーパーがあり環境のよい所にあります。センターは2階建の建物でのどかには1階にあり日当たりのよい場所にあります。他に訪問介護、居宅支援事業所があります。2階にはデイサービスと子育て支援の多目的室がありセンターの中はいつも色々な方たちが行き来しております。月に1回開催している認知症カフェ「げんきカフェ」には地域の方がみえてご利用者との交流もあります。私たちが日頃行っている介護や認知症の方との関わりを地域の方に教えたり、また教えられたりと良い関係が築けています。GHのどかでは自分達の作った理念と社福の理念「8つの基本ケア」に基づき「その人らしい生き方」を大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県道から少し入った閑静な住宅街に立地し、県道沿いにはスーパーや薬局、飲食店などがある。事業所内は木の温もりが感じられ、リビングや居室は床暖房になっている。リビングには暖かい日差しが差し込み、ゆったりと過ごせるソファも配され、利用者の思いに沿った過ごし方ができる。管理者は、利用者と職員が共に自分自身の思いを閉じ込めることのないように、それぞれの思いを日常の関わりの中で把握し、チームで話し合い職員にとって働きやすい環境づくりと、利用者が自宅にいた時と変わらない生活を送れるように取り組んでいる。地域の行事への参加や日々の散歩、事業所への訪問等で地域の方との交流も図り、外出の際は家族にも参加してもらうなど利用者、家族、職員、地域とのつながりを大切にしている。認知症カフェや地域の介護事業所との連携への取り組みなども行っており、今後益々、地域に根差した事業所として期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のどかの理念は2014年4月に作り替えました。現在は社福グリーンコープの理念と8つの基本ケアもできて管理者と職員は理念の共有をし実践を行っている	事業所理念はリビングや事務所などに掲示され日々実践できているか確認している。月一回の職場会議では法人理念についても実践ができているかを全職員で振り返りを行っている。職員は日々のケアの中で互いに声を掛け合いながら理念に基づいたケアの実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板をご利用者と一緒に届けに行ったり町内の行事に参加している。また毎月の認知症カフェやセンターの行事を回覧板にのせてもらい交流を行っている	地域の運動会や夏祭りなどに利用者と一緒に参加をしている。ゴミを拾いながら散歩をしたり地域の方とあいさつを交わしたりしている。地域の方とは事業所の行事や月1回の認知症カフェでも交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェも5年目となり馴染みの方に加え、新しい方々との出会いもありセンター事業所内での趣向を凝らし認知症への理解や支援方法など地域の方に向けて発信しつつ自分たちの学習の場にもなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これではご利用者の報告やご意見をいただきサービスの向上に活かしている。身体拘束適正化委員会も開催し虐待等についての是非を検討している。外部評価についても報告している。	地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、職員、家族代表の参加を得て2ヶ月に1回開催している。家族代表は毎年交代制で負担にならない様に参加している。利用者情報や運営の状況報告を行うとともに、センサーマットの使用等、身体拘束に関する福祉用具の使用についての質問に答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの職員に入ってもらい、事業所の報告やご利用者の様子などをお伝えしている。鎮西地区事業所連絡会にも参加し災害時に備えている。相談などができる関係を築いている。	地域包括支援センターとは運営推進会議に加え認知症カフェの取り組みについても参加協力を得ている。地域の介護事業所間でも災害時の支援を相互的に協力関係を築き取り組んでいるところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月職場会議では身体拘束委員会を開催、身体拘束や虐待防止について話し合っている。職員は常にご利用者の位置を把握するようにしており不安な方には個別対応する他、散歩、ドライブにでかけて気分転換を図っている	月に一回の職場会議で身体拘束について話し合っている。職員は「身体拘束はしない事が当然」「利用者の思いを閉じ込めない」支援に努めている。利用者と一緒にすることで乱れがちな言葉遣いも、職員間で声を掛け合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項どおり身体拘束委員会を開催し防止に努める他、運営推進会議でも身体拘束適正化委員会を開催し地域の方にも発信しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用されている方はいない。必要な方にはパンフレット等を配布できるように用意している。職員には権利擁護や人権については研修を受け学ぶ機会を作っている	管理者やケアリーダーが法人本部で研修を受け、事業所で全職員に伝達研修を行っている。伝達は研修を受講した本人が直接行う様にしており、職員は制度についておおよそ理解ができている。利用者や利用者家族には、入居時に管理者または計画作成担当者が説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や終了または改定等の際はご利用者やご家族に十分説明を行い署名捺印をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2～3回行事のあとにご家族に集まっていたご意見やご希望を伺っている。日々のご家族来訪時には個別に伺うようにしている。意見箱は設置し出しやすいように用紙、筆記用具を置いているが今のところは入っていない。	利用者には日々のケアの中で、食べたい物や行きたい場所などを聴いて献立や外出レクの計画に反映している。家族からも訪問時に利用者の状況報告と共に意見や希望を聞き取る機会としている。家族会では家族だけで話す時間を取り、その後職員も入るようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職場会議を開き運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。毎年処遇改善はなされている。	毎朝のミーティングや毎月の職場会議、年1回の管理者との面談等、意見や提案ができる機会がある。日々の業務の中でも意見は言いやすい関係性である。洗濯物の干し場について意見を出し、職員間で話し合い業務に反映させた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の活用で各自の目標を設定し達成に向けての研修や技術講習、資格取得できるように環境を整えている。賃金も処遇改善や見直しにより上がっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にはセンター長と管理者、リーダー等が行っている。長く勤めてほしいので働き方の希望を聞いたりその人柄に焦点を当てて採用している。現在40代～60代の職員が働いており、それぞれ希望の働きをしている	職員定着率が良く、開設以来勤務している職員が多い。食育に携わっていた職員は調理、花が好きな職員は花担当、和裁が得意な職員は縫物などそれぞれの能力を発揮している。職員は自身の年間目標(例えばスキルアップ等)が達成できるように配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回の人権研修は必修とし職員全員が受けることにしています。ご利用者はもちろん職員全ての人に人権の尊重された職場にしたいと考えます	管理者は法人内研修に加え、外部研修の案内を全職員に行い、希望者が管理者と共に参加し伝達している。玄関には苦情相談窓口のポスターを掲示し、管理者は日々の業務の中で人権に関することは直ぐに注意喚起する等、職員に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とそれぞれの希望する研修には研修費、交通費等の助成をして積極的に受けるように環境を整え推奨している。他にケアリーダーを置き介護技術や接遇などを勉強して媒介している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス事業所連絡協議会に入り同業者と交流や勉強会をしている。今年も徘徊模擬訓練に参加した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居されたかたには前利用のデイや施設、訪問の事業所、ご家族からも聞き取りをして安心して過ごして頂けるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談して不安なことや要望を伺ってスムーズに入居できるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人やご家族と面談を行いグループホームの生活に馴染めるように他のサービスの利用も含めて話をしている。希望者に理髪、訪問歯科、往診等の対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者との関係を「介護する側、される側」に分けず、「共に生きる人」として接している。出来る家事に参加して頂いたり一緒に出掛けたり、共に暮らす関係を大切にしている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	のどかでの行事には必ずご家族にも声をかけて参加して頂いている。敬老会、誕生会、行事等にご家族が来られるととても喜ばれる。また、受診時も出来るだけ同行して頂き健康状態を把握してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は馴染みの床屋、美容室等にいかれたりされていたが現在は無い。自宅に帰りたくなったらご家族等に連絡をとり安全に帰れるように支援している。地域の方との交流は認知症カフェやまつりで続けている	希望があれば、これまでのかかりつけ医や美容院等を利用することができる。友人や教え子が訪ねてくることもある。訪問があった時には居間や居室等希望する場所で、お茶を出す等寛いで過ごせるようにしている。職員は訪問者との写真を撮り送ったり、利用者が年賀状を書くのを職員が手伝い、家族等に郵送している	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の整理や掃除、調理の手伝い、配膳など出来る家事をして頂き、終わるとお茶を入れてお互いの労をねぎらえる様な関係を大切にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前看取りをしたご家族(2家族)が今現在も行事ごとにみえて音楽の演奏をしてくださったり、以前おられたご利用者の家族より入居希望の方のお話など受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の暮らしぶりや言動、ケアマネ、ご家族からの情報などで希望や意向を把握し、お気持ちに添えるよう努めている	日々の関わりの中で言葉や表情、様子などから思いなどをくみ取っている。把握が困難な場合には、訪問時に家族からも聞き取るようにしている。内容については日々の申し送りやケア会議などで職員間の共有を図っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用の事業所からの聞き取りとアセスメントを基本にしご家族、友人からの情報やご本人の会話の中からこれまでの暮らしぶりなどを把握するように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケア会議、モニタリングを行い、ご本人の把握に努めている 管理者、計画作成担当者もケアに入り、実際の状況を介護員からの情報だけでなくご本人と会話することで把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者からの情報や意見交換をし現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者がモニタリングを行っている。日々の関わりの中で利用者・家族、往診に来る医師などからも意見をもらい、毎月のケア会議で全職員で検討している。計画作成担当者が介護計画を作成し、現状に即したものとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実際、結果、気づき、ご本人の発言など記入している。また個別の目標を書き込み評価にて介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各担当者とのケア会議や必要時に意見を聞き、日々ニーズの変化を把握し対応できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月催している認知症カフェに参加され地域の方との交流をされたり、音楽ユニット(利用者家族)による音楽会を開催している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は24時間対応が必要であれば、往診を受けることができるよう支援している。(現在8名)歯科の往診も受けている。訪問看護と必要時は密に連絡をとり情報共有に努めている	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。他科受診を含め基本的には家族同行の受診となっており、殆どの場合、職員が家族とも同行し、様子など伝えるようにしている。事業所の協力医による往診や歯科の定期往診もあり、受診結果は家族、職員で情報の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には週2回入ってもらい健康管理をしてもらっている。勤務時間外でも必要時にいつでも相談できる体制を取っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院される時はかかりつけ医の病院がほぼ対応してくれているので普段からの情報共有、のどかでの生活状況の把握等はできている。他科の時は主治医より情報提供してもらっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した場合や看取りの指針について同意をいただいている。のどかでの看取りを望まれている方には主治医と連携をとって支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急講習をディサービス、訪問介護、ケアマネのスタッフと共に受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いろいろな災害対策に向けての避難訓練をご利用者も含め実施している。有事に備え地域の方々の参加協力も得て実施している。鎮西地域包括とも災害時に備え地域で情報共有のやり方など検討している	年2回、火災、地震、水害を想定した災害訓練を地域住民の協力を得て実施している。法人全体の災害対応マニュアルがあり、事業所独自のマニュアルの作成に至っていない。飲料水や米、缶詰など3日分程度の備蓄がある。職員は避難経路、避難場所、備蓄の保管場所など周知している。当事業所の働きかけで、災害時に備え地域に事業所連絡会が立ち上げられている。	有事に備え、事業所の現状に即した各種災害時対応マニュアルの作成と内容については全職員に周知、共有が望まれる。また、事業所連絡会による事業所間の連携を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でも上げているように入居者の方の「その人らしさ」を大切にしている。尊敬の気持ちを忘れず声かけや対応には常に心掛けている	トイレの際もさりげなく周りに配慮した言葉かけを行い、使用済みのパット類など新聞紙にくるみ外部の目に触れないようにしている。記録は利用者の様子を見ながら、テーブルの端で行っている。当月分の個人ファイルは居間の隅に、それ以外の記録物は事務室に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事でパンのお好きな方には希望通りパンをお出ししたり好みの飲み物などを伺い飲んで頂いている。ドライブの出掛け先、外食時の食事を選ぶ時などもご利用者の希望をできるだけ反映している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や動作のゆっくりな方には見守りつつ待つケアをしている。散歩やドライブは喜ばれるので良く出掛けている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日のメリハリを大事にしている、朝フロアに出て来られるときには寝巻から服に着替えて頂き、夕食後は寝巻に着替えて頂く、特に外出などはおしゃれをして出掛けるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんの楽しみの一つで出来る方には食事の準備や片付けをして頂いている。料理の得意な職員と皆さんで蒸し饅頭など作ることも喜ばれる、干し柿作りやつくしの袴むきなども現役顔負けの力を発揮していただいている	利用者の好みや希望するものなどが献立に反映され、一人ひとりの状況に応じた形で提供している。盛り付けやテーブル拭きなど利用者はできることを行い、食卓毎にテーブルクロスをかけ花を飾るなどしている。また、毎月、外食レク、スイーツレクで外の食事を楽しみ、所内には数種類の飲み物の準備があり、好きな時にいつでも飲めるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は軟食が中心でミキサー食、減塩食、糖尿食、一口大の方がおられる、出来る限り自力摂取を援助している。ミキサー食の方も味が混ざらない様に皿ごとに分けている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理体制加算をとり咀嚼機能の改善や摂食についてのケアの向上を目指している。毎月歯科衛生士の口腔ケアの研修を受け、食後の口腔ケアの促し、仕上げ等は全員に行っている。訪問歯科も入り治療や指導を受け実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しトイレにお誘いしている。新しく入居された方はリハビリパンツを使用しているが布パンツへの移行を実践している。自立支援はもちろん不快な気持ちにならないよう支援をしている	排泄パターンを把握してトイレ誘導している。失禁時には羞恥心に配慮し、シャワーなどで清潔を保ち気持ちよく過ごせるようにしている。排泄の意思表示があり、トイレ誘導することでパットを汚すことが少なくなり、使用枚数が激減した事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為、ヨーグルトや水分補給、果物や野菜の摂取を多くし、室内、戸外散歩などで身体を動かすようにしているが難しい方にはかかりつけ医による薬のコントロールをしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っている。2日に1回の入浴を基本にしているが高齢や病状などに応じて変更している。1対1の対応でゆっくり話ができ皆さん楽しみにされている	希望があれば、毎日の入浴も可能である。入浴を拒まれる場合は、無理強いすることなく言葉かけを工夫したり、日にちを改めたりしている。着脱の際には、羞恥心に配慮し、バスタオルをかけたりにしている。寛いだ雰囲気の中で、ゆず湯を楽しんだり、歌や会話が弾み楽しく入浴している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた家具を持参されたり、これまでの生活習慣を尊重し、ベッドの使用等状況に合わせて準備している。居室の換気や室温・湿度にも気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師と看護師が行い、介護職が服薬支援している。のみ込みに問題のある方には粉やゼリーにして飲み込みやすいように工夫をしている。服薬チェックは2名で行い服薬ミスを防いでいる。症状に変化があれば看護師や医師に連絡している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、買い物は皆さん好きなのでよく出掛けている。家事の参加や食事の挨拶など役割を持って頂けるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物はご希望を伺いよく出掛ける。年に2～3回遠出をしたり地域の方と交わった行事に参加している	買い物は個別に対応したり、年2回家族、ボランティアなども参加しバスハイクを楽しんでいる。職員体制などの条件が合う時はドライブに出掛け、道の駅などで買い物も楽しんでいる。外出が難しい心身状況の利用者も含め、テラスでティータイムを楽しみながら、外気に触れる機会となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自分でお金の管理をされてる方はおらずほぼ預かり金での支援をさせていただいている。センターのお祭り、行事でかけた際は物販品を買えるように支援した		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡で携帯電話を使用されている方は2名で家族が準備された。他の方は電話の取り次ぎ希望あれば行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節を感じる草花を生けたり、ご利用者と職員とで作成した切り絵、工作などを飾っている。 室温、湿度も小まめに調整し居心地良く過ごせるように工夫している	室内は木の温もりが感じられ、適度な明るさがある。玄関から廊下、室内と季節の飾りを楽しむことができる。床暖房のある居間にはソファが寛ぎやすいように配置し、季節に応じた掛物を飾っている。居間からベランダにある花々を楽しむこともでき居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前やフロア各所にソファを置いて自由に座って頂いている、職員も入り皆で談笑している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだダンスや写真、飾りなど自室に自由に置いて頂きご本人が居心地良く過ごせるようにしている	床暖房のある居室には、馴染みの筆筒や好みの椅子などが配置され、利用者の手作り作品や写真なども飾っている。利用者、職員で居室内の整理や掃除も行い居心地よく過ごせるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全にゆったりと過ごせるようになっている、廊下が長いので運動になる		